

1. ラナリット氏政界復帰へ、新党結成

カンボジアの故シアヌーク前国王の次男で、2012年に政界を引退したラナリット殿下(70)が政界復帰することを決めた。今後2週間以内に新党を結成する見通しで、党名は「王党派国民政党的コミュニティー」とする予定。今なお国民の敬愛を集める前国王や王室の支持者の結集を図る考えという。第1首相を務めたこともある同氏は、08年にノロドム・ラナリット党の党首を辞任しいったん政界を引退したが、10年12月に復帰。12年8月に再び政界引退を発表していた。

2. 2/10、ランシー氏帰国、再交渉開始の気配



救国党議員の話によると、半年以上にも及んでいる政治的膠着状態を打破するため、与党・野党間ではまた再交渉が行われようとしているようだ。救国党交渉陣のうち、リーダーを勤める Kuoy Bunroeun 氏は、「サムランシー氏が戻ってきた今、人民党との再交渉に取り組み時期であると考えているが、あくまで人民党が救国党に対して脅しや恐喝を行わない場合のみである。この交渉を互いに平等な立ち位置で行えるのであれば、私達は参加します。また、ストライキ中に逮捕されていた救国党党員に関しても快く党に復帰させる予定であることを明らかにした。まずは救国党内のリーダー達と面会をしたいです。サムランシー氏と会う予定です。すでに人民党と彼がコンタクトを取っているのかどうかは、まだ知りません」と話した。

内務省職員であり交渉に臨むメンバーのひとりでもある Sak Sitha 氏は、与党は再交渉を始めようと野党が連絡してくるのを待っているのだ、と話す。「人民党は、いつでも交渉に臨むつもりでいます」と彼はいう。それぞれの党首は9月からしばらく面会しておらず、1月に予定されていたはずの交渉は救国党側がキャンセルをしていた。ランシー党首は、2週間に及んだヨーロッパへの長旅を終え今夜にもカンボジアへ帰国する予定。

3. カンボジア、10万人以上が残業拒否か

2/24、縫製業を中心とする200工場、10万人以上の労働者が、残業拒否の実力行動に入った。労働組合側は当局側が、最低賃金の引き上げと拘束されている21人の労働者、活動家の釈放という条件をのまない限り、この実力行動を3/12まで続けるとしている。18の有力な労働組合や連合体の呼び掛けによって、3月中に全国的なストライキが実施される予定だが、今回の残業拒否はその前段の行動だという。今年1月初旬、賃金引き上げなどをプノンペン市内で求めていた労働者に対し、治安部隊が発砲し、1人が死亡し、21人が逮捕される事件が起きた。労働組合側は、この反発から今回、第1弾として残業拒否という大規模な実力行使に出た。なお、プノンペン経済特区(PPSEZ)の関係者によると、現在のところ、同特区区内では残業拒否などの動きはみられない。また、プノンペン市内でも労働者がデモを行うなどの荒れた動きはない、という。

4. 2/11、21人の釈放を求めたデモ、平穏に終了

先月逮捕されたストライキ活動の参加者たちの釈放を求める2/11のデモ活動は、平穏に終了した。プノンペンのリバーサイドにある寺を目指して行われたデモ行進には、警察の介入は見られなかった。Coalition of Cambodian Garment Workers' Democratic Union (C.CAWDU)のAth Thorn氏は、「彼等を放して、早く釈放して下さい！自由を下さい！明日は、21人を保釈するかどうかの審議がおこなわれます。私は、控訴院が彼等に自由を与えると信じています」と話した。Thorn氏と、9人の労働組合員、そしていくつかのNGO団体もまた、スローガンを繰り返しながら寺院まで短時間だが行進を行なった。寺院到着後、修行僧が祈禱を行なったあとに、Thorn氏らはバルーンを上げて、23羽の鳥を空に放した。この23羽の鳥は捕まった23人のデモ参加者を現しているもので、すでに2人は釈放されている。人権団体Licadhaによると、同じようなデモ活動が少なくともカンボジア国内45箇所、国外の13箇所で行われたと見られている。行進の前に行われていた記者会見では、Cambodian Confederation of Unionsの代表Rong Chhun氏が、「もしも裁判所が保釈要求を拒み、縫製分野の最低賃金を上げることに政府が反対するのであれば、また活動家たちはデモを行うでしょう。21人が釈放されず、最低賃金160ドルも実現しないようであれば、私は全国の労働者、活動家に呼びかけて大規模なデモ活動を行う予定です。各工場の労働者の代表たちは、もうそれに備えて準備ができています」と述べている。

5. 2/11、政府、組合や野党を批判

労務省のIth Sam Heng氏とスポークスマンのHeng Sour氏は、「自分達が最低賃金改正のために行っている努力を、

組合や野党が私利私欲のために意図的な暴動などを労働者に起こさせて台無しにしている。私達政府は、最低賃金をどうやって上げていくべきかを検討するために、調査委員会を立ち上げ活動していますが、野党や労働組合のいくつかは、その調査結果を自らの政治的意図のために利用し、わざと労働者達に暴動をけしかけています」と批判した。大規模ストライキを行うという組合側からの脅しに関して Sour 氏は、「彼等はストライキなどやめるべきです。それによって得られる利益など何もないし、それよりもテーブル上での話し合いが必要だと思います。もし本当に彼等が大規模ストライキを起こしてしまったら、カンボジア経済は大打撃を受けるでしょう」と話している。労務省のレポートによると、縫製業界で勃発したストライキの数は、2012年には61件だったものが13年には90件まで増加した。

6. 2/13、労働組合側は新戦術に訴える

2/11に行われた保釈聴聞会の結果、縫製業労働者のストライキを支持するデモに参加していた、21人の保釈は認められない、との結果が出た。これにより組合員達が、新戦術に訴える気配を見せている。

9人の組合員が代表として、「ストライキは来月の中旬までは行わず、また、デモに参加するよりもただその期間中は自宅に待機すること」というストライキ新戦術の計画表を作った。Cambodian Confederation of Unionsの代表 Rong Chhun は、「組合代表者達は今日、政府関係者や労働者等に、作成したストライキ計画を記した手紙を配布する。2月24日から2月28日まで工場で残業時間帯のみボイコットを行い、3月8日には公開フォーラム、そして3月の12日から19日にかけては自宅待機のストライキを行う予定。昨年12/24から今年1/03まで続いた前回のストライキの際には、縫製分野に携わる労働者達だけが参加していた。しかし今回、縫製分野以外の分野の労働者達も、多くを巻き込んでストライキを行う。もし政府がこのまま21人を釈放せず、最低賃金160ドルも実現させず、また、残り5つある他の要求も飲まないようであれば、ストライキは永久に続くでしょう」と話している。

官房長官の Keat Chhon 氏は、最低賃金上昇検討のために調査機関を引導している一人だが、彼も公開フォーラムに招かれる予定であることを話した。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU)の Ath Thorn 氏は、「政府には1か月間、この問題を考えるための時間があります。この1か月の間、もし海外の衣料ブランド企業が乗り気であるなら、カンボジア政府にプレッシャーを与えてくれるはずですよ」と話した。Community Legal Education Centerで労働プログラムに携わっている Moeun Tola 氏は、「このストライキは前回と違って、街頭でのデモ活動を控えることにより、鎮圧をより難しくする狙いもある。先月のストライキでは、警官隊がデモ参加者に対して銃を発砲し、少なくとも4人が死亡、12人が負傷する事態となっている。組合員が戦略というものを考え始めたのは、私にとってはとても嬉しいことであります。政府にとっては、ただ自宅待機しているだけの労働者を探り当てるのはかなり難しい仕事になるはずですよ」と話した。

しかし労務省のスポークスマンである Heng Sour 氏は、「すでに去年の12月に最低賃金は100ドルとして決定しており、今年中に160ドルまで上げるのは不可能である。月額80ドルから100ドルへの賃上げは、今年の終わり頃までには実現される計画であるようだ。労務省はこのように将来の賃上げへの道を開いているものの、それに満足しない労働者たちは法を犯さない最大限の範囲でストライキを起こし続けるのだ」と話す。また Garment Manufacturers Association in Cambodiaの事務局長である Ken Loo 氏は、「仕事をしないぞ、という労働者からの脅しは、縫製工場、靴工場のオーナー達には何ら彼等の態度を変える要因にはならないのではないかと。今年中に、現在決まっている額以上の賃上げはないでしょう。政府が新しい最低賃金を施行するころになると、労働者達も理解するのではないのでしょうか」と語った。

7. 労働者の通勤は未だ危険と隣り合わせ



National Social Security Fund (NSSF)のレポートで、縫製、靴製造に携わる労働者計67人が、2013年、通勤途中に交通事故によって死亡したことが明らかになった。2012年の49人から大きく増加した。政府が専門の組織を立ち上げ、トラック運転手に対する安全教育を行なっているという対策もあまり効果的とは言えなかったようだ。公共事業運輸省の Preap Chan Vibol 氏は、「これまで50人以上を輸送していたトラックが、今では政府機関の教育によって輸送人数を20~30人程度に制限していたりします。トラックの運転手は、熟達した運転技術がなく年齢も未熟なことが多いので、こうした交通事故の

大きな要因となっています。また運転免許も持っていないのに、60~70人を載せている運転手もいるのです」と話す。

Community Legal Education Centerの労働プログラム代表 Moeun Tola 氏は、「ただ単にトラックの搭載人数を制限すること、ベストな解決法ではないのではないのでしょうか。搭載人数を制限すると、ドライバーに労働者の運賃を値上げさせることになってしまいます。そうすると結局労働者は運賃のために残業を増やさざるを得なくなってしまいます。それよりも、海外のブランド衣料会社が労働者のためにバスの運賃や住宅手当などを補助することがベターだろう」と

話す。

Garment Manufacturers Association in Cambodia の事務局長である Ken Loo 氏は、「トラックの搭載人数に関して制限をかけるべきかいなか、政府と話し合いを行ってきた。ブランド衣料会社が工場の労働者のために運賃や住宅手当を支払ってくれることはないのではないだろうか」、と話している。

8. ゴミ収集労働者、賃上げストライキ敢行 ※続報

プノンペンでは、ゴミ収集等に関わっている労働者達が2/05, 06の両日、ストライキを行った。このストライキによりプノンペン市内のいたるところで、ゴミが山積みになっている状態だった。プノンペンのゴミの処理を任されている民営会社の Cintri 社に勤めている労働者達は、市民ホールで行なった4時間の会議を行なったのちに今回の仕事復帰の決断をした。会議の中では、労働者達が求めていた賃上げがある程度認められたようだ。しかし労働者達はまだまだ賃上げを要求したい意気込みだ。



Cintri 社の労働者代表 Prak Sokha 氏は、道路のゴミを撤去する仕事につく者の給料を始め120ドルとして要求していたが、会議中で80ドルまでのアップが認められてたことによりストライキ終結に同意した。夜中にトラックを運転して撤去作業をするものは現在の給料が110ドル、彼等は200を求めていたものこちらも120ドルで落ち着くかたちとなった。会社はまた、労働者に24時間体制での健康面のケア、制服着用義務の排除などを認めた。Sokha 氏は、「今回は、私達の求めるうちの、ほんの一部が満たされたに過ぎません。これからまた仕事を再開します。しかし賃上げを求める抗議活動をやるつもりはありません」と話す。

Cintri 社役員の Seng Sorida 氏は、本日中に労働者達が仕事に復帰すると予想している。「交渉の場では4つの項目が話し合われましたが、市民ホールは労働者達に対して仕事に戻るように命令しました。また、会社の備品を破壊しないように、といったことも言っていました。労働者達が仕事に戻ることを期待しています。一体どうなることでしょうか」と彼女は話す。

プノンペンの Daun Penh 地区に暮らしている Cintri さん42歳は昨日ポスト紙に対して、「日曜日の夜に Cintri 社の労働者が仕事を放棄して以来、市内には山積みになったゴミが多く見られます。いま、プノンペンはどこもかしこもゴミの山です。これはプノンペンのイメージに関わる大変な問題ですし、ひどい臭いで健康を害してきた人もいます」と話す。

9. アメリカへの輸出額わずかに増加

カンボジアにとってもっとも大きなマーケットであるアメリカへの輸出総額が去年28億ドルを突破し、2012年の27億ドルと比べて僅かではあるが増加したことが明らかになった。カンボジア商務省のスポークスマンである Ken Ratha 氏は、「輸出の分野としては縫製、綿織物、靴、精米、そして農産物がメインである。カンボジアの生産能力は向上しておりますので、もっと高い値段で売れる製品に着目しているところです」と彼は話す。世界最大の経済大国であるアメリカは、カンボジアの輸出総額のうちおよそ30%を占めている。また、Cambodia Institute for Cooperation and Peace の Hing Thoraxy 氏は、「ヨーロッパ諸国や日本といった他の国に対する輸出も、さらに増加してきている」と話した。

10. 縫製産業の輸出額が20%アップ

ストライキが多数回発生した年であったにも関わらず、2013年も、変わらず縫製業界が成長を見せた年であった。商務省によると、去年の輸出総額は55億ドルとなり、その前の年の46億ドルより20%の上昇を見せる結果となった。

商務省のスポークスマンである Ken Ratha 氏は、「この縫製業界の成長はさらなる受注と投資を惹きつけることができるでしょう」と話す。しかし Garment Manufacturers Association in Cambodia (GMAC) の事務局長である Ken Loo 氏によると、「この1年だけの数値を見て全体像を図ることは無理だ。GMACには2013年、メンバーの数が30%増えており、それを考慮すると20%の成長では足りない。比例的に成長したというのであれば、そんなものだろう、という程度のもので」と話している。

今年中に最低賃金を2倍に増加させることを要求したボイコットやストライキなどが今年各地で行われ、それによる縫製工場の損失は何百万ドルにもものぼると言われている。昨年のストライキデータはまだ出ていないが、昨年11月の時点では131回のストライキがカウントされ、これはすでに2012年の121回を大きく上回っている。このデータはGMACが2003年より調査しているものだ。ストライキブームは1月3日にプノンペン市内で4人の労働者が銃撃され死亡したことにより、より深刻な事態へと転換している。

以上